



西川 英伸 議員
(市民クラブ)



代表質問

■復興予算の用途と拡充について

復興関連財源の現状と
今後の活用方針を問う

質

能登創造的復興支援交付金活用事業の26億円については、今年度末に11億円が残る見込みとされている。令和8年度における住まいの復旧・再建事業をはじめ、交付金を活用した各事業への充当状況および見通しについて伺う。

また、令和6年能登半島地震復興基金活用事業については、県からの枠配分13億円をすでに使い切っているほか、市独自についても残額が3億円を切る状況となっている。復興基金をどのような事業に充当していく考えなのか。あわせて、その原資として、ふるさと納税から復興基金への程度の積立てを見込んでいるのか伺う。

答

令和7年度においては、本交付金を活用し、準半壊・一部損壊世帯に対する住宅修繕支援である住まいの復興支援事業や、被災宅地等の復旧支援事業などに約10億円を充当している。令和8年度予算においては、前年度から継続する各事業に加え、旅館従業員等の雇用維持支援やリフレッシュスポーツ祭などに、合計で約5億円を充当する予定である。これにより、累計充当額は15億円となり、交付額全体に対する充当率は約58%となる見込みである。

令和6年能登半島地震復興基金については、令和7年度末の残高が約3億7,000万円となる見込みであり、令和8年度予算においては、住まいの復旧支援事業に加え、半壊以上の世帯を対象とした新築購入等の支援である住まいの再建支援事業などに充当する予定としている。また、ふるさと納税から復興基金への積立額については、令和7年度は約6,500万円を見込んでいます。



山崎 智之 議員
(灘会)



代表質問

■市道並びに上下水道の復旧状況と、完了見通し

公共インフラ復旧工事の現状把握と今後の対応

質

復興ははまだ道半ばであることを踏まえ、被災した市道や橋梁、並びに上下水道配管の改修・復旧工事について、現在の進捗はどの程度か伺う。

また、市道、市が設置した橋梁および上下水道配管の改修・更新に關し、今後の復旧工事の完了見通しについて行政の考えを伺う。

答

令和6年能登半島地震により被災した市道、橋梁および上下水道管の復旧について、現在の工事計画件数は市道212件、橋梁2件、水道管44件、下水道管136件となっている。工事の進捗状況は、本年3月の完了予定分を含め、市道は39件で進捗率は約18%、水道管は6件で進捗率は約14%、下水道管は1件で進捗率は約1%となっている。

完了見通しについては、被災した市道の多くの箇所が上下水道などのライフラインも被災していることから、手戻りが生じないよう調整を行いながら工事を進めている。

市道および下水道管は被災箇所が非常に多く、復旧には長期間を要する見通しであるため、令和16年度末の完了を目標に復旧を進めている。

また、橋梁については令和10年度末、水道管については令和11年度末の完了を予定している。